

男と女の状況と関係がわからなくてもなんとなく読めますが、「追いやられる」人とはどんな立場か、親との関係を通して想像してみよう。

<sup>1</sup> 傍線は読解に役立つ重要語。数字は単なる注釈ではなく読解で意識するポイント。タイトルも段番号も元々は書かれてないので、教科書によって違いがある。

昔、若き男、けしうはあらぬ女を思ひけり。さかしらする親ありて、<sup>2</sup>

<sup>2</sup> 重要語「さかし」から推測

思ひもぞつくどて、この女をほかへおひやらむとす。さこそいへ、まだ

おひやらず。人の子なれば、まだ心いきおひなかりければ、とゞむるい

きおひなし。女も卑しければすまふ力なし。<sup>3</sup> さるあひだに、思ひはいや

<sup>3</sup> 「親」はどちらの親か？ 女は「卑し」と

まさりにまさる。俄に親この女をおひ棄つ。<sup>4</sup> 男血の涙を流せども、とゞ

あるがどういう状況と関係なのか推測。

むるよしなし。率て出でて去ぬ。男泣く泣くよめる。

<sup>4</sup> 「親」が追い棄てる立場にあることに注目。

出でていなば誰か別れの難からむありしにまさる今日<sup>5</sup>はかなしも

<sup>5</sup> 誰のどのような思いか

とよみて絶えいりにけり。親あわてにけり。猶思ひてこそいひしか、い

とかくしもあらじと思ふに、<sup>5</sup> 真実に絶えいりにければ、まどひて願たて

<sup>5</sup> 誰のどのような思いか

けり。今日の入相許に絶えいりて、又の日の戌の時ばかりになむ、から

うじていき出でたりける。むかしの若人は、さるすける物思ひをなむし

ける。いまのおきな、まさになむや